



地下出口 自首するやうに炎昼へ

峰崎成規

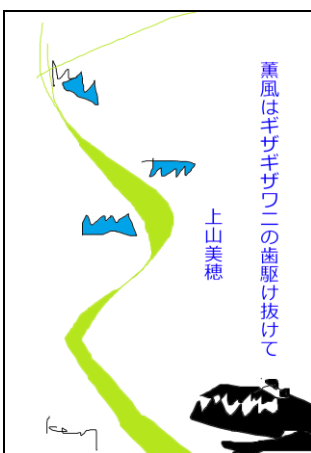
地下道から地下道へ、たとえ遠回りになっても陽射しを逃れて涼しい道を選んで来たが、とうとう地上に出ねばならぬ。観念、覚悟をするか。



意の儘にジルバにルンバ水馬

西野周次

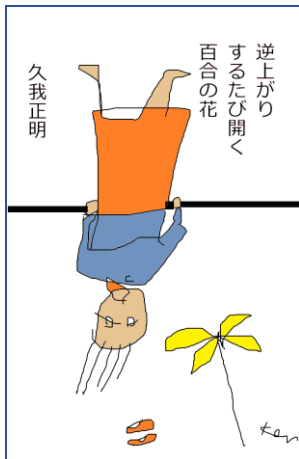
水馬が水面で軽やかにルンバやジルバを踊る風景は楽しい。長い脚がこんがらがったりせぬかと心配するは余計なお世話だ。俳句は脳味噌の遊び。



薫風はギザギザワニの歯駆抜けて

上山美穂

この薫風はなんだかギザギザに吹いてくる。これはワニの歯を駆抜けたからに違いない。ひと飲みにもされそうな吹き方は、カバの口からの風だね。



逆上がりするたび開く百合の花

久我正明

百合の花が開くのと、遠い記憶の中のスカートの女の子が逆上がりする風景とが、作者の中で繋がった。因果関係を断定したことで面白くなった。



父の日の自販機やさしき言葉して

高田敏男

家電のみならず自販機のおしゃべりも進化している。挨拶は当然ながら、時間帯や季節、歳時に対応している自販機も。人間より気が利いている。



他所の庭に生えてれば好き夏の草

南とんぼ

生命力に満ちた夏草は、俳人にとって絶好の句材。しかし、それが何処に生えているかが問題。お隣の草は素晴らしい。しっかり育ててもらいたいわ。